

シリーズ講演会「生涯建築史学徒の研究ノート」

法隆寺壁画の形と色彩

画師・黄書連本実を軸にしたスケッチ・ボード

講師・鈴木解雄先生（元札幌市立高等専門学校「札幌市立大学」教授

・元NHKチーフディレクター）

今日では一般化しているコンピュータ技術による歴史的建築物の復原。その先駆けとして、講演者が長く携わってきた、コンピュータ・グラフィックスによる法隆寺金堂及び五重塔の壁画の実証的な復原とその過程を詳らかにするとともに、法隆寺伽藍の建設に大きく関わったとみられる画師・黄書連本実（きぶみのむらじほんじつ）の活動を、壁画作成を中心とした法隆寺伽藍建設経緯に準えながら読み解くことで、単なる技術官僚としては捉えきれない飛鳥・白鳳期における画師という職能の意味を考える。

主催——日本建築学会関東支部建築歴史意匠専門研究委員会

日時——平成二六年一〇月一八日（土）一五：〇〇～一七：三〇

会場——日本建築学会建築会館会議室
（住所：東京都港区芝五丁目二六番二〇号）

定員——六〇名（申込先着順）

参加費——一般六〇〇円、学生会員三〇〇円、学生無料

（資料代：一三〇〇円別）

問い合わせ——日本建築学会関東支部建築歴史意匠専門研究委員会

藤田康仁 fujita@enveng.titech.ac.jp

申込み——日本建築学会関東支部ウェブサイトよりお願いいたします。